

平成29年度第2回放送番組審議会 議事録

開催日時 平成30年2月21日(水) 14時から15時5分
開催場所 三次市防災センター 1階会議室
出席者委員 添田龍彦・千崎由博・岸田立・山岡幸子・前田茂・岩崎積・石田睦子
欠席者委員 重信富子・落田正弘・宗清弘樹・湯藤浩康
説明員 (株)三次ケーブルビジョン
田坂代表取締役社長・新宅専務取締役・林取締役
幸住管理課長・坪井営業技術課長・津田制作課長・野田企画課長
向井制作課長補佐・伊達アナウンサー

- 1 開 会 定刻になり事務局が開会を宣言。続いて代表取締役社長が開会にあたって挨拶する。
- 2 会長挨拶 添田会長が挨拶を行ない、委員の皆さんには様々な意見を頂戴したいと述べた。
- 3 審 議 審議に先立ち、制作課長が情報ストリート「あっちこっち三次」の特集コーナー『輝く女性を発見!』について、このコーナーの趣旨を説明する。続いて担当したりポーターが今回の番組の企画意図と番組概要について、資料に基づき説明する。(事前にDVDを送付した。)

会長(司会) 視聴いただいたDVDの内容について、忌憚のない意見を願います。

委 員 市内で頑張っている女性を紹介するというこの企画は、いい企画だと思う。これを見て、都会に出ている若い人達に、三次でもこんなことが出来るという情報が広がれば、地元に戻ってみようかと思う人が増えることにも繋がるのではないかと。地元に住んでいる私でも、紹介されたお店を知らなかったの、こうしたお店を知ることができたという意味でも、良かった。引き続き、色々な情報を発信していただくのと合わせて、今回は女性を取り上げられていたが、IターンやUターンをされたり、三次に残って頑張っている若者も居られるのでそうした方の紹介もしていただきたいと思った。

委 員 先日、三次で開催したまちづくり講演会の講師の方が、30代、40代の男性は地元で就職できるが、残念ながら女性の働く場所がなかなかない。それが市内の人口が増えない原因であると分析されていた。この番組は、タイムリーに

市内で働く女性を紹介されていた。これからもキラキラ輝く女性を取り上げて三次はいいところだなと思ってもらえるよう、もっと番組を充実してもらいたいと思った。

委員 起業に至るまでの過程を引き出したら、もっと良かったと思う。起業に至るまでの苦労や夢や思いを、番組のなかで紹介されたら、今後起業する人が、女性に限らず増えてくるのではないかと思った。

委員 番組がもう少し長くても良かったと思う。(起業した方の)苦労話や、どういう思いで三次で起業したのかということを知ったら良かった。三次ならではの苦労話が聞けたら、次に続く方の参考にもなったと思う。

委員 第2次三次市総合計画では、20代から40代の主婦をターゲットにして人口維持を図るとしている。未来に夢を持ち、起業に関わりたいと関心を持つ、もっと若い20代以下の女性にもPRを含めて、焦点を当てるような企画があればいいと思う。

委員 女性起業家の応援になっており、今回の企画は良いと思った。三次市が女性就業支援拠点の開設を1,700万円かけてされる予算案が、新聞に掲載されていたが、若い人に住みやすい三次をアピールするのに一役買う番組だった。

会長(司会) 国の中央の方では景気が回復傾向にあるという情報があるが、三次ではそれを実感することはない。そういう状況で、若い女性達が自身の資格や技能を活かして起業をされて頑張っておられることに、活力を感じた。リポーターが自分自身で体験しながら、感想を含めて紹介されていたのは、大変分かりやすい番組であった。

番組の中で紹介されていなかったが、起業されたきっかけは話されていなかったのだろうか。

社側 取材中に色々な話を聞いているが、限られた放送時間内に編集しなくてはならないので、カットした部分も多い。

委員 取材先は、見つけてきたのか。

社側 第1回目の方は、お店を紹介したいと言って来られた。第2回目からは、当社で探したり、取材先で紹介してもらった人だった。

これからは、苦労話や、三次で起業する大変さをもっと聞きだしていきたい。

委員 この企画は、子育てをしながら起業された人に限られていたのか。

社側 限ったわけではないが、これまでの6名は全員、子育て中の女性だった。

社側 取材した女性達に共通しているのは、楽しんで、子育ても仕事もされていることだった。社会貢献ややり甲斐を求められていた。店の紹介ができれば、それに越したことはないが、そこまで告知をする思いはなく、そこが女性らしいと感じた。

- 委員 こういった番組を、UターンやIターンをする人のきっかけ用に、東京や大阪など都市部の場所で放送することはできないのか。
- 社側 三次以外の場所で放送するとなると、三次という地域の紹介や内容を更に詳しく説明するような作り込みが必要になってくる。この行政の取り組みを、三次市内の人に紹介する手助けになればという意味で、番組を通して三次の人に見てもらうことが第一段階だと思ってほしい。今後、多くの方が興味を持たれて、もっと長い時間で取り上げたら、という意見が出て、もう少しまとまった番組になれば、県外で放送することも考えられる。その前のステップだと思ってもらいたい。
- 委員 私の地域の農家レストランも、何度か市外のテレビ局から取材を受けたが、取材を受けたその日から、すぐ結構な数の問合せや視察の申し込みがある。三次市は一人でも人口が増えてほしいと考えているので、女性が起業するチャンスがあることを市外へ発信することによって、UターンやIターンを生み出す効果は大きい。是非外部の人に発信してほしいと思う。市内の人は、テレビを見るより市の広報誌などで結構、情報を得ている。市内の人より、都市部に居る人達、移住を考えている人達に見てほしいと思った。
- 委員 今回の5分では短い、30分程度の番組を制作して、広島県の東京事務所で放送するとか、他のテレビ局に番組を売るとか貸すとかできないだろうか。空き家バンクと絡めて、三次の良さをPRする地元のケーブル局の役割を示していければ、また活力が生まれると思う。これを契機に、検討してほしい。
- 会長（司会） YouTubeに個人が撮影したものを載せたりしているが、ケーブルビジョンでは、そういったことをしたことはないのか。
- 社側 当社では、今のところしていない。今は、様々なツールがあるので、紹介し合うことは、いろいろできる。ただし、放送したものをYouTubeにアップしようとする、著作権や肖像権をクリアにしておかなくてはならないという問題が生じる。取材の時に、かなり厳しいチェックをしなくてはならなくなる。これからの検討課題である。
- 委員 5分というコーナーは短いという意見があったが、忙しい時間帯に見る側からすれば、5分という短い時間で情報をキャッチできるという良さもある。また、事業を起こすような、大きなエネルギーを持っている人が居られるということで、純粋にパワーをもらえる。そういうパワーを三次市民に届けられることは頼もしいと感じた。
- 委員 このコーナーで紹介した方は、子育て中の女性ばかりとのことだったが、もう少し子供さんを出したら、同じ子育て中の若い女性に、より訴えかけられる内容になったと思う。
- 委員 今回は女性ばかりを取り上げられていたが、男性が見ても参考になる内容だ

った。

委員 先程の説明のなかで、育児をしながら、楽しんで社会貢献したい。友達が増えればいいという視点で起業される女性が居られるということだった。あまり利益の追求がないと言われていたが、輪が広がるという時に男性と女性の視点がうまく融合して、三次が更に活気づくようになると楽しみだなと思った。

委員 起業する若い人に対して、三次市や商工会議所のバックアップ制度があることを、番組の別枠で補足的に紹介してもいいと思う。起業に関心のある若い人が番組を見て情報を得られたら、ネットワークが拡大したり、契約の獲得にも繋がるのではないかな。

委員 (他の視点からの意見になるが) 中学生は立志の会、高校生は各種発表会で自分達の意見や思いを表明している。その中で、地元のことを知って感動を覚えるということがある。当社で放送している、『歴史さんぽ』を集大成して放送してもらえたら、子供達が地元のことを再発見できるのではないかなと思う。子供達が色々な夢を語ってくれることがヒントになって、私達も何か、それに応えられる体制ができたらいと思う。せっかく取材して放送している素材を、活用することも検討していただきたい。

委員 18歳から選挙権が得られるようになった。将来の三次を考える時に、中学生や高校生をターゲットにした番組があってもいいのではないかなと思う。選挙権が与えられても、すぐにはわからないのだから、社会の構造だとか三次の状況をもっと知りたいだろうと思う。どんな仕事に就くか、キャリア教育もされているが、教育現場の中で教わるのと、実際の社会で見たり体験したりする機会を与えてあげるのでは、実社会の方が、将来の地域の発展に繋がるように思う。そんな企画を、若い世代に関連づけながら、作ってほしい。

社側 (先程、番組を市外に発信すればという意見があったが) ケーブルテレビ局として、外に情報を発信していく役割もあるし、他地域の番組を三次の人に紹介することも役割の一つであると思う。他のケーブルテレビ局と連携して番組を制作したり、番組の交換をすることにも取り組んでいきたい。

今回の企画では、20代から40代の人々の生き方が女性目線で紹介され、身近なところから起業することができるということがしっかり伝わったと思う。男性とは違って、限られた条件の中で、工夫や努力をして自分たちで仕事を発見している。そんな働き方が、今の女性と昔の女性ではずいぶん変わってきている。また、UターンやIターンの場合は、別の視点で取り組まないと、課題が少し違うと思う。

女性の多様化した働き方、生き方が、三次でもできていることが伝わればいいのかと思う。

委員 今回は女性に焦点を当てた企画だが、若い男性にも焦点を当ててほしい。先

月の教育フェスタでは、高校生の意見発表があった。その後で、高校生の一人が「自分達の意見は、ここで終わってしまうのか」と洩らした。自分達の住んでいる地域、三次をどのように考えているのかを、若い子供達と同じ目線で、行政に伝えていかないといけないと思った。

委員 これから3月、4月にかけて異動が増える時期になる。転入されてきた方に今回のような、三次を知ることのできるDVDをプレゼントしたら、加入動機に繋がるのではないかと。

委員 これからは、もっと若い世代へ目を向けた企画に取り組んでもらいたい。歴史や地域のことをもっと理解できるような内容にしたなら、若者のふるさと意識や故郷を守ろうという気持ちが深まるのではないかと思う。

社側 1月から、三次市長の定例記者会見を12チャンネルで放送することになった。市長のタイムリーな思いを、市民の皆さんに知っていただけるので是非見ていただきたい。

会長(司会) 皆さんの意見が出揃ったようだ。本日も貴重なご意見をいただき、感謝する。これで放送番組審議会を終了する。

4 閉会 事務局が本日のニュース番組「情報ストリート、あっちこっち三次」で、この審議会の模様を放送し、議事録をHPに掲載することを伝え、閉会した。